

「空気をとじこめる(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ポリ袋に空気を閉じこめる…この実に単純な営みが、子どもたちにとっては、楽しくて仕方ないのだ。1人でやっても面白くない。しかし、仲間と関わりながら取り組むと、楽しさも発見も倍増する。



まず実感してほしいことは、「空気の閉じこめにくさ」だ。この班の子どもたちも、何度も「空気の捕獲」に失敗し、4回目か5回目でやっと成功した。誰もがやってみたくらいの「空気を抱きしめてみる」という動作だ。ポリ袋に閉じこめた空気は、周囲の空気と同じ温度なのだが、不思議なことに子どもたちは「すごくあったかい!」と言う。



さきほど失敗した班も、今度はうまく口を縛れたようだ。何度も袋を押して、音も聞いて、空気がどこからも漏れていないことを確認していた。



空気を入れたポリ袋に座ってみる…これも子どもなら必ず試す行動だ。最初は「えー、絶対に破れちゃうよ」となかなか全体重をかけようとしなない。



友達に手をとってもらって体勢を安定させ、ついに全体重をかけた。袋はパンパンに張っているが、ゆっくり座れば、子どもの体重で敗れることはない。



1つの班で成功すると、次々と「後継者」が現れる。ふわふわのはずの空気が30kg前後の子どもの体重を支えられる。この「意外さ」も空気の面白さだ。